

デジタル教科書構成案／歴史的分野

第2部 第4章 第1節 欧米諸国における「近代化」

第1節の問い 「近代化」の進展で、欧米諸国の政治や社会はどのように変化したのだろうか。

評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
市民革命と産業革命を経た欧米諸国の世界進出、社会主義の登場の背景や植民地への影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。	工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、近代化により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したか考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米諸国における近代化と市民社会の成立について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

展開例

項目	学習課題	本時の目標	指導のポイント
1. 市民革命の 始まり	イギリスでの革命や、アメリカでの独立戦争によって、政治のあり方はどのように変化したのだろうか。	(1) イギリスでは市民革命を通じて立憲君主政と議会政治が確立されたことを理解し、その意義を考えることができる。 (2) アメリカ独立戦争が起こった背景を理解し、独立宣言が出された意義を考えることができる。	・イギリスの市民革命の背景には、地主や商工業者の台頭があったことを理解させる。 ・アメリカ独立戦争が起こった背景と代表制に基づく共和政が確立したことを理解させる。 ・イギリスやアメリカでは、国王や本国との戦いを通して、基本的人権を尊重する社会をつくり上げてきたことを考察させる。
2. 人権思想から フランス革命へ	フランス革命によって、政治や社会はどのように変化したのだろうか。	(1) フランスの人々が主権と基本的人権を獲得していく経緯を、フランス革命を通して理解できる。 (2) ナポレオンの登場が、ヨーロッパ諸国や世界に与えた影響について考えることができる。	・フランスの人々が主権と基本的人権を獲得したことを、人権宣言から読み取らせる。 ・ナポレオンの登場がヨーロッパ諸国と世界に与えた影響について、ナポレオン法典とヨーロッパ諸国への遠征に着目して考察させる。
3. 産業革命と 資本主義の成立	産業革命によって、社会はどのように変化した、また、どのような考え方が生まれたのだろうか。	(1) 産業革命が起こった背景と社会の変化を理解し、現代社会との関わりが深いことに気付くことができる。 (2) 社会主義の考えが唱えられた理由を、資本主義の問題点から考えることができる。	・産業革命による社会の変化と国民生活への影響を理解させ、資本主義の意義と問題点を資料から読み取らせる。 ・社会主義の考えが唱えられた理由を、女性や児童労働者の増加、生活環境の悪化に着目して考察させる。

<p>4. 欧米諸国の 近代国家建設</p>	<p>アメリカ・ドイツ・ ロシアでは、それ ぞれどのように近 代国家の建設を進 めたのだろうか。</p>	<p>(1) アメリカ合衆国の領土拡大の経緯と、南北戦争が起こった背景を理解できる。 (2) ドイツとロシアの近代化の特色を理解し、残された課題について考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の領土拡大の経緯を読み取らせ、南北戦争が起こった背景を貿易や奴隷制に着目して理解させる。 ・市民革命が起こらなかったドイツとロシアの近代化の特色を理解させる。 ・近代化が遅れて始まったアメリカやドイツ、ロシアには、どのような課題が残されていたか考察させる。
<p>5. 世界進出を 目指す欧米諸国</p>	<p>欧米諸国は、なぜ 世界各地に植民地 を広げていったの だろうか。</p>	<p>(1) 産業革命後、欧米諸国は原料と市場を求めて世界へ進出していったことを理解できる。 (2) 欧米諸国の世界進出が、アジア・アフリカの経済や政治に与えた影響を考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスが世界へ進出できた要因を、産業革命との関わりから理解させる。 ・インド大反乱が起こった理由を、資料から読み取らせる。 ・イギリスのインド進出の影響を、綿織物の輸出額の変化から考察させる。 ・アジア・アフリカにおいてモノカルチャー経済が形成された理由を、欧米諸国との関わりから考察させる。